

## 平成19年度 伊豆市決算概要

平成19年度の地方財政は、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入の伸びが鈍化する中で、社会保障関連経費の自然増や公債費が高い水準で推移していることから大幅な財源不足を生ずるという深刻な事態となっています。

さらに、高齢化が本格化する中において、我が国の経済活力を維持し、社会保障制度や少子化対策を充実していくためには、継続的な経済成長を図るとともに、財政健全化に向けた歳出歳入一体改革に取り組んでいくことが求められています。

当市におきましても17年度から取り組んでいます「伊豆市集中改革プラン」を基に自主財源の確保や事務事業の見直しによる経費の削減など、健全な財政運営が出来るような行財政改革を推進してまいります。

平成19年度の地方財政状況調査における普通会計ベースの決算は、

歳入決算額	16,474,283千円	(前年度)	16,152,322千円
歳出決算額	15,701,897千円	(前年度)	15,208,807千円
形式収支	772,386千円	(前年度)	943,515千円
実質収支	663,287千円	(前年度)	812,413千円

となり、実質収支では前年度に引き続き黒字決算となっています。また、標準財政規模に占める割合である実質収支比率は、前年度より1.5ポイント下がり6.5%となりました。引き続き適正な水準を維持しています。

決算総額を見てみると、前年度に比べ歳入歳出ともに増額となりましたが、歳入増の主な要因としては、税源委譲による市町村民税の増や新火葬場建設に係る起債等があげられます。歳出増の要因には、新火葬場建設工事費と台風4・9号による農林土木災害復旧費の増額等があげられます。

主な事業を見てみると、新火葬場建設について、平成18年度からの継続工事となっていました。20年3月に完成、「伊豆聖苑」として20年4月から供用開始と

なりました。また、熊坂保育園の園舎耐震補強工事も実施しました。

次に、天城北道路関連事業は、天城北道路大平インターチェンジ建設工事完成による本立野トンネル区間の20年4月の供用開始に合わせ工事を進めてきましたが、現在は、大平インターチェンジ入り口から日向側に道路工事が進められています。

教育関係では、小中学校の施設整備事業として、本年度は土肥中学校校舎の耐震補強工事を実施いたしました。

消防関係では、田方消防組合南署の完成。また、平成19年度静岡県総合防災訓練が伊豆市で行われました。

このほか、行財政改革の一環といたしまして、18年度から進めている「指定管理者制度」を適用し、19年度から新たに狩野川記念公園や天城ふるさと広場等の管理運営を実施、効率的な行政運営の拡充を図っております。

会計別決算では、老人保健特別会計において、国の概算交付額が減額となるなどのため、23,639万円の歳入不足となりました。また、昭和の森会館事業特別会計が廃止され、本年度より一般会計へ統合されました。

### 平成19年度一般会計の決算の概要について

平成19年度の一般会計は、6回の補正予算と前年度からの繰越事業予算などで、最終予算総額は163億3,126万円となりました。このうち、天城北道路アクセス道整備工事や災害復旧費など3億4,605万円が平成20年度へ繰越となりました。

歳入決算額163億3,975万円の主なものは、地方税が、税源委譲により前年度に比べ4億266万円多い49億7,761万円に、地方譲与税は、所得譲与税がなくなったことにより3億987万円減の2億8,985万円になりました。起債については新火葬場建設に係る合併特例債等3億7,820万円増の16億390万円。これに対し、地方交付税は3億7,878万円減の47億778万円の決算となりました。

一方、歳出決算額は155億6,809万円で95.3%の執行率となっています。前年度

との比較では、衛生費が新火葬場の建設工事などにより 4 億 5,828 万円増の 18 億 6,086 万円、民生費が熊坂保育園耐震補強工事、障害者自立支援事業費の増などにより 1 億 1,138 万円増の 30 億 5,462 万円、災害復旧費が台風 4・9 号による農林土木災等により 9,559 万円増の 2 億 3236 万円。また、公的資金の補償金免除繰上償還を行い、公債費は 7,651 万円増の 22 億 5,837 万円の決算となりました。減額となったものは、公共漁港整備事業等減により、農林水産業費が 2 億 6,595 万円減の 5 億 3,591 万円、小学校体育館の改築、耐震事業費の減等により教育費が 8,790 万円減の 16 億 3,733 万円となりました。総額では前年度に対し、5 億 1,154 万円の増額となりました。

なお、歳入歳出差引総額 7 億 7,166 万円のうち、土木費、災害復旧費において翌年度事業実施分の繰越財源を差引いた実質収支は 6 億 6,256 万円の黒字となりました。

## 平成 19 年度特別会計の決算概要について

### (1) 公共用地取得事業特別会計

歳入総額 600 万円、歳出総額 584 万円で、実質収支額は 16 万円の黒字となりました。

歳入には普通財産貸付料 176 万円、繰越金 416 万円などがあります。歳出は、土地開発基金積立金 399 万円、用地購入費 185 万円でした。

### (2) 天城北道路用地取得特別会計

歳入総額 1 億 2,853 万円、歳出総額 1 億 2,797 万円で、実質収支額は 56 万円の黒字となりました。

歳出の公共用地先行取得事業債の元利償還金 1 億 2,797 万円に対し、歳入で天城北道路用地再取得国庫委託金として 1 億 2,815 万円を受け入れました。

### (3) 国民健康保険特別会計

歳入総額は42億4,326万円、歳出総額は41億3,615万円で収支は、1億711万円の黒字となりました。平成19年度は基金からの繰入7,883万円を行いましたのでこれを控除した実質収支は2,828万円となり、医療費の伸びにより財政収支が前年度に比べ大幅に悪化いたしました。

歳入では、財政安定化支援共同事業が年間分として算定されたため、共同事業交付金が1億7,655万円(70.3%)増の4億2,777万円が交付されました。国民健康保険税では、毎年、滞納額が増加しており、徴収権の消滅などにより不納欠損として2,560万円の処分を行いました。

歳出では、退職被保険者分において、入院給付が43.4%1億2,220万円と大幅にのびたことから、前年度に比べ2億1,191万円(8.4%)増の27億2,795万円となりました。老人保健拠出金は老人医療の受給者数が減少していることから、前年度に比べ5,434万円(7.5%)減の6億6,724万円の支出となりました。

### (4) 老人保健特別会計

歳入総額は35億8,051万円、歳出総額は36億415万円で2,364万円の資金不足となりました。これは、対象年齢が75歳になるまで平成15年度以降引き上げが続いており、伊豆市においては医療費が減少しており、国庫負担金の算定において、概算交付額が基準額に対し不足となったため、20年度において精算交付となります。

医療給付の状況は入院、外来において件数、費用額ともに減少し、前年度に比べ2億4,968万円(6.6%)減の35億1,410万円となりました。

歳出総額は、対前年度比2億5,755万円(7.2%)減となりました。

### (5) 介護保険特別会計

歳入総額は25億6,133万円、歳出総額は25億222万円で実質収支は、5,911万円の黒字となりました。

歳入では、介護保険料が、前年度からの改定と高齢者の増により、対前年度比 2,015 万円（4.9%）増の 4 億 3,528 万円となりました。また、保険給付費の増に伴い、国庫支出金、県支出金及び支払基金交付金が増となり、歳入総額は、対前年度比 1 億 3,190 万円（5.4%）の増となりました。

歳出では、保険給付費が対前年度比 1 億 1,610 万円（5.2%）増の 23 億 2,771 万円となり歳出全体の約 93%を占めています。地域包括関連事業の充実により地域支援事業費が対前年比 2,294 万円(36.6%)増の 8,554 万円となりました。歳出総額は、対前年度比 1 億 4,777 万円（6.3%）の増となりました。

#### (6) 簡易水道事業特別会計

歳入総額は 7,118 万円、歳出総額は 7,098 万円で、実質収支は 20 万円の黒字でした。

歳入では、佐野簡易水道タンク設置工事の終了に伴い市債が減となりました。

歳出では、施設改良工事の減等により、対前年度比 734 万円減（9.4%）の 7,098 万円となりました。

#### (7) 下水道事業特別会計

歳入総額は 17 億 5,792 万円、歳出総額は 16 億 7,583 万円で、翌年度への繰越事業財源を控除した実質収支額は 8,119 万円の黒字となりました。

歳入では、一般会計からの繰入金は減となりましたが、下水道建設費及び補助事業費の増により、国庫補助金及び地方債が増となり、対前年度比 563 万円の増（0.3%）となりました。

歳出では、下水道管理費（1,198 万円）及び公債費（717 万円）はそれぞれ減となりましたが、特定環境保全公共下水道事業の管渠工事費の増(3,138 万円)等により、対前年度比 1,237 万円の増（0.7%）となりました。

#### (8) 農業集落排水事業特別会計

歳入総額は1億2,260万円、歳出総額は1億1,294万円で、実質収支額は966万円の黒字となりました。

歳入では、国庫補助金、県補助金、地方債がそれぞれ減となりましたが、使用料手数料等の増により395万円の増(3.3%)となりました。

歳出では、業務費、施設費で増となりましたが、公債費の減により23万円の減(0.2%)となりました。

#### (9) 湯の国会館事業特別会計

歳入総額は8,673万円、歳出総額は8,251万円で、実質収支額は422万円の黒字となりました。

利用者は、前年度に比べ239人減(0.3%)の75,636人となり、歳入においても使用料及び手数料が41万円減(0.8%)となりました。

歳出では、事業費にあった職員給与等を総務管理費に一本化したことや消費税の支払い等により総務管理費が対前年度比552万円(9.2%)の増となりました。

#### (10) 天城温泉会館事業特別会計

歳入総額は1億619万円、歳出総額は1億322万円で、実質収支額は297万円の黒字となりました。

温泉会館の利用者は、対前年度比3,988人(8.8%)減の41,357人、夕鶴記念館の利用者は61人(17.2%)増の415人となりました。

歳入では、レストラン収入や売店収入の減により諸収入が対前年度比242万円減(9.9%)の2,210万円となりました。

歳出では、ボイラーの取替工事や源泉ポンプの取替工事、消費税の支払い等により総務管理費が対前年度比749万円の増となり、総額で223万円の増(2.2%)となりました。

#### (11) 上水道事業会計

収益的収支は、収入 5 億 9,106 万円、支出は 5 億 7,278 万円で、収支は 1,828 万円となり、当年度純利益は 1,097 万円となりました。

資本的収支は、収入 480 万円、支出 2 億 7,053 万円で不足額 2 億 6,573 万円は、過年度分損益勘定留保資金、及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしました。主な改良工事としては、大京送水・配水管布設替工事、古川送・配水管布設替工事、天城北道路関連大平配水管布設替工事（1 工区）等を行いました。

#### (12) 温泉事業特別会計

収益的収支は、収入 7,492 万円、支出は 6,206 千円で、収支は 1,286 万円の黒字となり、当年度純利益は 1,023 万円となりました。

資本的収支は、収入 33 万円、支出 6,646 万円で不足額 6,613 万円は、過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金、及び消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしました。主な改良事業としては、土肥温泉集湯施設改良工事、中浜地区及び平野地区配湯管更新工事を行いました。

#### (13) 天城ふるさと広場事業特別会計

歳入総額は、7,123 万円、歳出総額は 6,978 万円で、実質収支額は 145 万円の黒字となりました。

年度途中の 10 月から指定管理となったため、市としての営業期間は 9 月末までとなっています。また、歳計剰余金については山荘の改修費、消費税、平塚市と当市の精算金にあてました。